

【本件リリース先】

文部科学記者会、科学記者会、
広島大学関係報道機関



広島大学

NEWS RELEASE

広島大学広報グループ
〒739-8511 東広島市鏡山 1-3-2
TEL : 082-424-3701 FAX : 082-424-6040
E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

令和4年3月10日

福島原発事故で被災した福島県南相馬市の寄附講座を 広島大学病院に設置し、4月から医師を市立病院に派遣します

情報提供

広島大学病院は、福島県南相馬市からの要請を受け、寄附講座「消化器内視鏡医学講座」を令和4年4月から設置する予定です。同市にある「南相馬市立総合病院」に医師を派遣し診療にあたるとともに研究も進めます。東日本大震災から11年。復興が進んでいる一方で、生産年齢人口と出生数の減少など課題もあると伺っています。安心・安全を提供する社会基盤としての医療を支援、復興への後押しを期待されています。

南相馬市立総合病院は、福島県の東部、太平洋の沿岸部「浜通り」に位置し、南相馬市を含む2市2町村の「相馬地域」と東京電力福島第一原発が立地する大熊町・双葉町を含む8町村の「双葉地域」から構成される相双地区の中核基幹病院です。急性期医療を担うとともに、検診業務やリハビリテーションも行い地域医療に貢献しています。

今回の寄附講座は、南相馬市立総合病院と消化器内視鏡医学領域の連携を深めることにより、相双地区の医療体制の確立への取り組みを支援します。安心して暮らせる地域社会の構築をさらに進めることで、避難住民の帰還や生産年齢人口・出生数の回復につなげるなど東日本大震災からの復興への一助になればと考えています。

寄附講座は令和4年4月から5年間の予定で、准教授と助教の2人が担当し、助教は南相馬市立総合病院で診療にあたります。

広島大学は国の緊急被ばく医療の拠点である三次被ばく医療機関（現在は高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センターに指定）として東日本大震災及び福島第一原発事故が発生した直後から、継続して緊急被ばく医療チームや放射線の専門家ら延べ1,300人余りを派遣するなど、医療支援を中心とした被災地の復興支援活動に取り組んできました。現在も福島県が設置した「ふたば医療センター附属病院」などへ継続的に広島大学病院の医師を派遣しています。

また、南相馬市と広島大学は、東日本大震災後の連携・協力関係を一層緊密にし、地域目標の実現、地域全体の教育・学術研究機能の向上を図るとともに、地域の再生・活性化、人材の育成に寄与するため、平成25年に包括的連携協力に関する協定を締結し、相互連携を進めています。

【お問い合わせ先】

広島大学病院 広報・調査担当役 古市
Tel : 082-257-5418 FAX : 082-257-5087
E-mail : byo-toku-chousa@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数 : A4版 1枚（本票含む）